

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪

Nr. 4 2017年6月9日(金) 文責: プファイル・辰巳

運動会 お疲れさまでした!

自分自身はスポーツが苦手な、子どもの頃は、運動会当日は、ちょっとブルーな気分になっていました。でも、今は、運動会がとても楽しみです。なぜかという、みなさんの輝いている姿をたくさん見ることができるからです。

全力で走る姿、真剣なまなざしや笑顔で踊る表現活動、補習校のお友だちと楽しそうに取り組む団体競技……。どれも本当に素晴らしかったです。思わずこちらも笑顔になったり、みなさんのがんばる姿に打たれて涙が出そうになったりしました。最後までプログラムを終えることができなかつたのは残念ですが、みなさんと楽しい一日を過ごすことができ、今年も思い出に残る運動会になりました。蒸し暑い中、どうもお疲れさまでした。



音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲② J.S.バッハ(1685・1750) 「カプリッチオ BWV992～最愛の兄の旅立ちに寄せて」>

BWV (Bach-Werke-Verzeichnis) はバッハ作品目録を意味しています。前回紹介しましたモーツァルトの場合は、目録を作ったケツヘルさんの頭文字を取って、Kがついていましたが、バッハの場合はBWVと呼ばれます。

多くの作曲家の作品番号が、ほぼ作曲された年代順につけられているのに対して、バッハの場合は曲のジャンル別に分類されています。たとえば、525番から771番がオルガン曲、772番から994番がそれ以外の鍵盤楽器の曲... というようになっています。最終は1080番まであり、65歳まで生きたとはいえ、まさに職人仕事のごとく多産な作曲活動だったことが分かります。

さて、「音楽の父」と尊敬され、膨大な数の作曲をしたバッハの作品の中から本日紹介するのは、鍵盤楽器のためのカプリッチオBWV992です。この曲はバッハが若干19歳の時の作品です。

8人兄弟の末っ子として生まれたヨハン・セバスチャン・バッハは9歳で母

を、10歳で父を亡くします。その後は、3歳年上のヨハン・ヤーコブと共に長兄のヨハン・クリストフの元に身を寄せて暮らすようになります。

カプリッチオの副題になっている「最愛の兄」とは、3歳年上のヨハン・ヤーコブのことを指しています。この兄はオーボエ奏者で、1704年にスウェーデン王の軍楽隊に入隊することになりました。その旅立ちに寄せて作曲された曲の一つがこの曲です。洒落た表題のついた6つの小曲の中の一つです。



ヨハン・セバスチャン・バッハは世話になった長兄のヨハン・クリストフのためにも別の曲を作曲して、捧げたりしており、バッハ家の親族のつながりの親密さ、兄たちに対する彼の敬愛の深さを感じさせられる曲です。

2分ほどの小曲ですが、ハープシコード(チェンバロ)、ピアノ、オルガンなど様々な鍵盤楽器で演奏された録音を聞くことができます。個人的には、繊細で張り詰めたような響きを持つハープシコードの録音がおススメです。グスタフ・レオンハルトの演奏など、いかがでしょうか?

Vorschau: 1学期ミニコンサートは7月7日(金)の予定です。
(予告) 詳細と申し込み用紙は、次号(紙ベース)で配布の予定です。

ちょっとだけ 演奏会情報

6月23日(金) フランクフルト・カイザードームにて
20時から パイプオルガン コンサート
バッハとフランス音楽

STOMP 公演 : リズムスペクタクルと音のパフォーマンス
アルテオーパー、大ホールにて

6月28日(水) 20時
29日(木) 20時
30日(金) 20時
7月1日(土) 16時と20時
2日(日) 15時と19時